

## 平成21年西東京市教育委員会第7回定例会会議録

- 1 日 時 平成21年7月28日(火)  
開会 午後2時7分 閉会 午後4時29分
- 2 場 所 保谷庁舎4階 研修室
- 3 付議事件 別紙議事日程のとおり
- 4 出席委員 委 員 長 竹 尾 格  
委員長職務代理者 沼 本 禧 一  
委 員 宮 田 清 蔵  
委 員 角 田 富美子  
委 員 森 本 寛 子  
教 育 長 野 崎 芳 昭
- 5 欠席委員 なし
- 6 出席職員 教 育 部 長 高 根 和 孝  
教育部特命担当部長 二 谷 保 夫  
教育部副参与兼教育企画課長 櫻 井 勉  
学校運営課長 山 本 一 彦  
教育部副参与兼教育指導課長 前 島 正 明  
教育相談担当課長 南 里 由美子  
統 括 指 導 主 事 石 井 卓 之  
指 導 主 事 山 縣 弘 典  
教育部参与兼社会教育課長 波 方 幹 徳  
スポーツ振興課長 飯 島 伸 一  
公 民 館 長 相 原 昇  
教育部参与兼図書館長 小 池 博  
教育部主幹(図書館) 奈 良 登喜江
- 東 小 学 校 校 長 林 祐 司  
田 無 第 二 中 学 校 校 長 西 嶋 剛 昭  
ひ ば り が 丘 中 学 校 校 長 大 野 雅 生  
田 無 第 三 中 学 校 校 長 中 島 理 智  
青 嵐 中 学 校 校 長 河 合 雅 彦  
柳 沢 中 学 校 校 長 福 間 和 正

田無第四中学校校長	木曾友仁
田無第一中学校副校長	東山信彦
保谷中学校副校長	田中正
田無第二中学校副校長	加藤竜吾

7 事務局	教育企画課企画調整係長	清水達美
	教育企画課企画調整係	相澤潤子

8 傍聴人 12人

平成21年西東京市教育委員会第7回定例会議事日程

日 時 平成21年7月28日（火） 午後2時00分から

会 場 保谷庁舎4階 研修室

- 第1 会議録署名委員の指名
- 第2 議案第37号 平成21年度西東京市教育委員会表彰について
- 第3 議案第38号 平成22年度使用西東京市立中学校教科用図書の採択について
- 第4 議案第39号 平成22年度使用西東京市立小・中学校特別支援学級教科用図書の採択について
- 第5 請願第1号 扶桑社版中学校歴史ならびに公民教科書、および自由社版中学校歴史教科書を採択しないことを求める陳情
- 第6 請願第2号 子供たちに最高の歴史教科書を提供のお願い
- 第7 協議事項 文化・スポーツ行政の推進体制について
- 第8 報告事項 平成21年度図書館蔵書点検結果報告について
- 第9 その他

平成21年西東京市教育委員会第7回定例会追加議事日程

日 時 平成21年7月28日(火) 午後2時00分から  
会 場 保谷庁舎4階 研修室

第1 議案第40号 文化・スポーツ行政の推進体制等について

西東京市教育委員会会議録

平成 2 1 年第 7 回定例会  
( 7 月 2 8 日 )

## 午 後 2 時 0 7 分 開 会

### 議事の経過

竹尾委員長 ただいまから平成21年西東京市教育委員会第7回定例会を開会いたします。

これより直ちに本日の会議を開きます。

竹尾委員長 日程第1 会議録署名委員の指名を行います。本日は宮田委員にお願いいたします。

竹尾委員長 日程第2 議案第37号 平成21年度西東京市教育委員会表彰について、を議題といたします。提案理由の説明を求めます。

野崎教育長 議案第37号 平成21年度西東京市教育委員会表彰について、の提案理由を御説明申し上げます。

本議案については、西東京市教育委員会表彰規則及び西東京市教育委員会表彰審査基準に基づき、西東京市体育協会より推薦をいただいたものであり、西東京市教育委員会事務委任規則第2条第13号に基づき、提案するものでございます。

なお、西東京市教育委員会表彰規則第6条に基づく西東京市教育委員会表彰審査会は6月26日に開催し、被表彰候補者について審査を行い、決定しております。

それでは、表彰予定者の説明に入らせていただきます。

第1番目としまして、中沢紀子さんは、昭和59年に西東京市剣友会に入会した後、平成元年より理事役員を務めていらっしゃいます。家庭婦人として剣道を続け、長年の経験から後輩の家庭婦人剣士のよきアドバイザーとして活躍していらっしゃいます。

第2番目といたしまして、森下章さんは、西東京市弓道連盟の会計監査役を務め、平成14年に錬士の称号を授与されております。現在、87歳の御高齢にもかかわらず活発に活動され、全会員の模範となる功績顕著な方でございます。

第3番目の野村水脈子さんは、西東京市水泳連盟の副理事長、会計部長として活躍され、市町村水泳競技会の背泳において3回優勝された実績をお持ちになり、会の活動を支えながら後進の指導育成に寄与しておられる方でございます。

第4番目、石谷悟さんは、西東京市卓球連盟において、シチズン時計入社後、全日本卓球選手権第3位、世界卓球選手権代表として選出され、現在では、都民体育大会卓球団体の部で5連覇の偉業を達成されたメンバーの一人であります。個人においても、東京選手権大会年代別において3連覇をなし遂げております。連盟の活動の中で他の仲間からも信頼される模範となる方でございます。

第5番目、和田法夫さんは、昭和51年にバドミントン協会に入会以来、32年間にわたり青少年の育成に尽力され、現在もバドミントン協会の副会長として活躍しており、中心的な役割を果たしているところでございます。

第6番目、菅野泉さんは、平成6年に少林寺拳法連盟に入会し、現在は、少林寺拳法連盟幹部として活躍しながら、東京都大会では7年連続最優秀賞に輝き、青少年の育成、後進の指導育成に寄与しております。

第7番目、五味川壽美江さんは、平成4年にラジオ体操連盟入会以来、連盟の発展のため

に精力的に活動され、平成14年にみんなの体操幹部指導者認定証を取得し、後進の指導に当たっており、ラジオ体操の普及に務めております。

第8番目、山形亀吉さんは、昭和61年に旧保谷市ゲートボール協会に入会し、その後協会の理事を、西東京市体育協会においても理事の役職を務められ、ゲートボール協会の発展に尽力されております。

第9番目の尾林一夫さんは、西東京市社交ダンス連盟傘下団体の会長を務め、西東京市社交ダンス連盟では理事を務めており、その運営に御尽力されております。

第10番目の林敏夫さんは、平成6年に旧田無市ターゲットバードゴルフ協会に入会し、現在は、協会の事務局長を務めております。ニュースポーツであるこの競技の活動を通して生涯スポーツの普及に尽力されております。

以上のとおり表彰予定者の御説明をさせていただきました。

以上で提案理由とさせていただきます。

竹尾委員長 補足説明はありますか。 ありませんか。

説明が終わりました。質疑を受けます。 質疑を終結します。

これより討論に入ります。 討論なしと認めます。

これより本議案を採決いたします。原案に賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

全員賛成。よって、議案第37号 平成21年度西東京市教育委員会表彰について、は原案のとおり可決されました。

竹尾委員長 日程第3 議案第38号 平成22年度使用西東京市立中学校教科用図書の採択について、を議題といたします。提案理由の説明を求めます。

野崎教育長 議案第38号 平成22年度使用西東京市立中学校教科用図書の採択について、でございます。

本件につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の第23条第6号及び西東京市教育委員会事務委任規則第2条第10号に基づいて提案し、採択をお願いするものでございます。

なお、平成22年度使用中学校教科用図書につきましては、社会、歴史的分野以外に新たに文部科学大臣の検定を経たものがないことにかんがみ、社会、歴史的分野以外の種目については、文部科学省初等中等教育局教科書課長名で、採択権者がそれぞれの地域の生徒にとって最も適した教科書を採択する責任を果たしつつ、その手続の一部を簡略化することも可能であるという趣旨の通知が参りました。本市では、採択までの事務手続は簡略化せず、前回の採択資料も参考にしながら進めてまいりました。

私からは以上でございます。詳細につきましては事務局より説明いたさせますので、御審議のほどよろしくお願い申し上げます。

前島教育指導課長 それでは、教育長を補足いたしまして、説明させていただきます。

今回の教科用図書の採択は、西東京市立小・中学校教科用図書採択事務要綱に基づきまして調査研究を行い、本日の教育委員会において採択することになっております。

それでは、採択の流れについて御説明いたします。

教育長は、各学校に全教科・種目ごとに検定を受けたすべての教科用図書についての調査研究の実施及び報告を依頼します。

次に、調査部会について御説明いたします。

調査部会は、学校ごとに報告された調査資料を参考にしながら各教科・種目ごとにすべての教科用図書の調査研究を実施し、報告書及び調査資料を採択資料作成委員会に提出します。

続いて、採択資料作成委員会について御説明いたします。

採択資料作成委員会の委員は、各教科を担当する校長または副校長9名を校長会より推薦していただきます。さらに、今年4月1日の市報で公募した保護者の代表2名及び市民の代表2名も委員となっております。採択資料作成委員会は、調査部会から提出された報告書及び調査資料に基づき、調査部会の調査研究について確認、検討するとともに、内容が適切であるかなど協議を深めます。また、採択資料作成委員会による調査研究とは別に、市役所の保谷庁舎の情報公開コーナー、市内3箇所の図書館に見本本を置き、市民の皆様にご覧していただくとともに、御意見をちょうだいし、採択資料作成委員会に報告し、調査対象といたします。

これらをもとに全教科・種目ごとにすべての教科用図書について報告書を作成し、教育長に提出いたします。

私からは以上でございます。

竹尾委員長 説明が終わりました。

本日は、関係職員ということで採択資料作成委員会の校長先生、副校長先生方にも出席していただいております。質問にお答え願う場合がありますので、その節はよろしく願いいたします。

先ほどの教育長の説明にもありましたが、平成22年度使用中学校教科用図書につきましては、社会、歴史的分野以外に新たな検定を経たものがないことから、社会、歴史的分野以外の種目については、採択権者が生徒にとって最も適した教科書を採択する責任を果たしつつ、その手続の一部を簡略化することも可能であるとの話がありました。また、現在市内中学校で使用されております教科用図書は、平成17年度の教育委員会で慎重に審議され、採択されたものであります。これらをかんがみ審議をお願いいたします。

これより各教科ごとに審議を行います。

まず、国語について、教育指導課長の補足説明を求めます。

前島教育指導課長 それでは私から、採択資料作成委員会の報告をもとに、内容・構成・分量、表記・表現及び使用上の便宜を中心に簡単に御説明、御報告いたします。

それでは、国語から種目ごとに、お手元の議案にあります平成22年度使用西東京市立中学校教科用図書の一覧の順に従って、御説明いたします。

国語については、5社がございます。

まず、東京書籍は、文学作品、説明的な文章とも量が少ない。単元による構成であり、今の時代の学習としては評価に結びつきにくいですが、各教材を掲載順に学習することができる。指導に適した資料であるが、文字サイズが小さく見づらい。

次に、学校図書は、幅広く新旧含めた教材が載せられているが、説明的文章で論理性の基礎を学ばせることには難がある。従来の教科書の大きさであるが、ページ数はかなり増えており、授業時数から考えると量が多い。文学教材のカットや写真に工夫が欲しい。

次に、三省堂は、生徒の興味を喚起する教材を基礎的・基本的内容を中心に系統立てて効果的に配列しており、基礎的学習の必要性が高く、本市に適切な内容である。領域別の部立てをしっかりと立てながら基礎的な内容を押さえられている構成となっており、発展的な内容まで柔軟な指導が可能である。適切な表記・表現で簡潔に統一されており、写真や資料は明確で理解しやすいものが選別されている。

次に、教育出版は、新しい試みとしているが、教材の内容が無秩序に並べられている印象がある。単元と単元とのつながりが見えにくいため、生徒の実態に適した指導展開となるように事業者が教科書の配列を再構成しなければならず、展開しづらい構成である。写真や資料などは個性的でよいが、少しにぎやか過ぎるところもある。

光村図書出版は、基礎・基本に重点を置きながら段階を追って力をつけていけるよう工夫された内容である。復刻教材が多いので生徒の興味にどうつながるかに不安が残るが、取り組みやすい文章が多い。領域別を意識しながらも単元色が濃い構成となっている。手がたくまどまっており、教材の配列も適切である。写真・挿絵は適切である。全体的に落ちついた色彩で、挿絵も美しい。文字は全体的に見やすい。

以上、5社の中で現在使用している三省堂と光村図書出版が高い評価となっております。

以上でございます。

竹尾委員長 説明が終わりました。質疑を受けます。

角田委員 質問です。国語というのは、何よりも基礎的・基本的な言語能力を身につけさせることが重要だと思うのですが、学習指導要領の改訂版で1年でも早く徹底しておいたほうがよいと思われる、そういった内容というのははっきりしているのですか。それとも、こういったことについての話し合いがどのように行われたのか、伺いたいと思います。

東山田無第一中学校副校長 お答えいたします。

新しく行われます新学習指導要領については24年度からということでございますが、現行の教科書においても十分にその内容については考慮されております。したがって、現行の教科書について選択していく中で十分にそのことについては話し合いました。

角田委員 わかりました。

森本委員 質問ですけれども、現在、市の基礎的な学習の必要性がこの高い地域ということなんですけれども、現在この市の子どもたちの状況というのはどういうふうにとらえられているのでしょうか。

東山田無第一中学校副校長 国語についてでございますか。

森本委員 はい。

東山田無第一中学校副校長 国語はすべての教科の基幹となる教科でございますが、基本的な力は、市内の生徒たちは皆持っている認識しております。東京都の中においても標準もしくは標準以上というぐらいのところの力は持っているのではないかと推測しております。

竹尾委員長 よろしゅうございますか。

森本委員 はい。

竹尾委員長 ほかに質疑はございませんか。 質疑を終結します。

これより討論に入ります。

角田委員 私は、この国語の5社の教科書をずっと見せていただきまして、まず基礎・基本的な内容が中心で、読解力や言語指導も非常によいということ、学習教材が生徒の意欲を非常に引き出す、この地域に非常によく合っているということ、そして基礎から発展まで柔軟な指導が可能だということ、そして適切な表記・表現が簡潔に統一されているという、こういった状況から見てみますと、光村図書出版か三省堂が適切なのかなと思います。さらに調査報告書等々も見せていただいた上で、私は三省堂を推薦したいなと思います。

竹尾委員長 ほかに御意見は。

沼本委員 私も、5社の教科書を読ませていただきまして、最終的にはやはり三省堂と光村が大体同じ高い評価をしたわけです。ただ、やっぱり子どもの興味・関心とか、そういうふうな観点から見ると、やや三省堂のほうが非常に読みやすかったのではないかなと思います。それから、教材の内容も非常に心情的に訴えるような内容になっていまして、三省堂のほうが、今扱っているということもありまして、いいのではないかなというふうに思っています。

竹尾委員長 どうもありがとうございました。

ほかに御意見ございますか。 討論なしと認めます。

それでは、ここで国語について採決いたします。現在使用しております三省堂でよろしいでしょうか。賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

全員賛成。よって、国語は三省堂に決定しました。

次に、書写についてを議題といたします。教育指導課長に説明を求めます。

前島教育指導課長 書写の教科書も6社ございます。

東京書籍は、生活書写が充実しており、基本が丁寧に説明してあるが、楷書が少ない。また、毛筆は充実しているが、硬筆に工夫が欲しい。各学年とも系統的に構成され、おおむね調和がとれ、配列も工夫されている。見やすく工夫され、実例が多く取り上げられていてよいが、資料的な印象を受ける。

次に、学校図書は、毛筆は詳しく、手がたくまとまっている。硬筆はいきなり難しくなる。生活、応用と分野に分けて構成されて見やすいが、配列が平板である。生活に生かすため、資料がのし紙、色紙、短冊、新聞など多岐にわたっておりよいが、用具の取り扱いがわかりにくい。

次に、三省堂は、基本的なことが多く、特に硬筆の内容が多く充実している。単元の配列がわかりやすく扱いやすい。書写の説明が細かく平易に記述されており、写真や資料も見やすい。教科書に直接書き込めるので使いやすい。

次に、教育出版は、新鮮味に欠けるが手がたくまとまっており、基礎の習得には適切な内容である。教材の配列はよいが分量が少ない。筆遣いは見やすい。また、写真が効果的に入り、指導しやすい。

次に、光村図書出版は、基礎的・基本的な内容がおおむね掲載されており、手紙、百人一

首など国語と関連させた応用もよい。楷書は少ない。全体的に調和がとれており、おおむね系統的に構成され、配列されている。写真や挿絵は適切で、使用上の便宜が図られている反面、筆の運筆がはっきりしない。

最後の日本文教出版は、基礎的・基本的な内容はおおむね掲載されており、黒板、目標、年賀状など、生活と関連させた応用はよいが、新鮮味に欠ける。おおむね配分は調和がとれているが、配列は従来どおりである。資料が興味深い。運筆が見やすく、特に平仮名の連続曲線の運筆はよい。

以上、6社の中で現在使用している三省堂と光村図書出版が高い評価となっております。

以上でございます。

竹尾委員長 説明が終わりました。質疑を受けます。

角田委員 質問、よろしいですか。小学校の書写指導として、どのような事項が最も重視されるべきなんでしょうか。

東山田無第一中学校副校長 質問がちょっと聞き取りにくかったものですから、繰り返させていただきます。小学校でございますか。

角田委員 ごめんなさい、中学校です。中学校の書写指導で最も重視されるべきことというのは。

東山田無第一中学校副校長 中学校の場合、小学校の指導を踏まえて指導を行っていくものであります。したがって、楷書の部分を小学校でやりまして、そこから行書のほうに入っていきます。そして生活のほうにつなげていくという形で、実際に日常の中、将来に向けて生きていく形で書写にしていくと。書写にしていくということが目標です。

角田委員 やはり楷書が主になるということですか。

東山田無第一中学校副校長 いや、小学校が楷書が主でございます。

角田委員 そうですね。

東山田無第一中学校副校長 中学校は楷書を中1の最初のところで復習する形で取り上げ、そのうち行書のほうに入っていきます。

竹尾委員長 ほかに質疑はございませんか。 質疑を終結します。

これより討論に入ります。

角田委員 討論というより、私が今のお話も伺って思うんですけど、やはり硬筆書写の内容が多く充実しているという三省堂、そしてその硬筆も使いやすいということは楷書も行書の基礎となることもきちんと踏まえた上で、いいんじゃないかなというふうに思いましたが、皆さんいかがでしょうか。

竹尾委員長 ほかに討論はございませんか。

沼本委員 今の角田委員と同じなんですけど、硬筆の内容と申しますか、それが非常によかった。ほかの教科書に比べて多くて充実しているということ。それからもう一つは、特徴的なのは、直接教科書に書き込めることができるワークブック的な働きがあるのは、これは子どもにとっては、実際に手本の字と照らし合わせながら書くことができるので、非常に特徴的で高い評価をしております。

竹尾委員長 ほかに討論はございませんか。 討論なしと認めます。

それでは、ここで書写について採決をいたしたいと思います。お二人の委員からの御発言を踏まえまして、現在使用しております三省堂でよろしいでしょうか。賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

全員賛成。よって、書写は三省堂に決定いたしました。

次に、社会（地理的分野）についてを議題とし、教育指導課長に補足説明を求めます。  
前島教育指導課長 それでは、社会（地理的分野）の教科書について、御説明いたします。  
6社ございます。

東京書籍は、基礎的・基本的な内容は押さえられていて、地図の学習には効果的である。表記・表現はわかりやすい。世界の諸地域の分量が少ないという指摘があった。また、資料が多過ぎ、見開きページが多く、扱いにくいという指摘もあった。

次に、教育出版は、身近な地域を取り上げていて、内容はわかりやすくまとめられている。分量は適切であり、表記・表現はわかりやすい。生徒の興味・関心を引き出す内容になっているのかについて意見は分かれた。全体として資料が多過ぎる嫌いがある。

次に、帝国書院は、基礎的・基本的な内容はわかりやすくなっている。調べようという構成になっていて、表記・表現はわかりやすい。構成の仕方が、基礎的な理解が十分でない生徒に合っているか問題である。写真や資料は多いが、使いやすさについては意見が分かれた。

次に、日本文教出版（旧大阪書籍版）は、地図や図法についての説明が詳しくされている。表記・表現はわかりやすい。東京都についての記述がなく、日本と世界の諸地域の配列が系統的と言えない。掲載の教材やイラストがやや絵本的である。

次に、日本文教出版は、内容は易しい感じがして、表記・表現も平易である。都道府県調べでは東京都と関東から1県を取り上げている。基礎・基本を習得させるには物足りなさがあり、興味・関心を引き出すのにも疑問が残る。

最後に、日本書籍新社は、学習指導要領の事項を適切に取り上げており、基礎的・基本的な内容もわかりやすい。単元等が系統的に配列され、調和がとれた構成になっており、各地域の位置関係がつかみやすくなっている。表記・表現もわかりやすく、写真・資料も本文との関連に配慮されていて、学習しやすいものとなっている。

以上、6社の中で現在使用している日本書籍新社が高い評価となっております。

以上でございます。

竹尾委員長 説明が終わりました。質疑を受けます。

森本委員 実際の地理の学習は、自由研究とか調べ学習というものがやはり中心になってきているのでしょうか。それとも、先生の講義というような形のほうが重視されているのでしょうか。

木曾田無第四中学校校長 地理は、学校によっても違うんですが、1年から学習しております。今、教育委員さんもおっしゃるとおり、調べ学習、自分で調べる、あるいは班でグループ学習して調べて、それをまとめて発表していく、そういう形が授業としては中心になっていると思われま。

あとは、基礎的な事項については、復習などは小テストなどをして力をつけていくような、

そういうスタイルになっていまして、地理は特に調べ学習が多くなっていると見られます。

竹尾委員長 ほかに質疑はございませんか。

沼本委員 地理などは、今、校長先生がおっしゃったように、調べ学習が非常に多いと思うんです。中学校で調べ学習というのは、時間的には大体どのくらいとっているんですか。

木曾田無第四中学校校長 調べ学習の時間でしょうか。 時間的には全体の指導時数からいうと3分の1以上はとっているんじゃないかなと思われます。半分まではいかないかもしれませんが、学校によってこれも差があると思いますが、3分の1から2分の1程度はとっているんじゃないかなと思われます。

竹尾委員長 ほかに質疑はございませんか。 質疑を終結します。

これより討論に入ります。

角田委員 私は、地図は何といっても見やすい、ポイントが明確で活用しやすいのが第一かなというふうに思っています。そういう面で見ると、この6社、甲乙つけがたいほどよく似ていて地図ばかりで、本当に何がポイントになるんだろうかと思って目次からずっと見ていきましたが、私はやっぱり、「みつめてみよう、わたしたちの地球、調べてみよう、まわりの世界、くらべてみよう、世界と日本」と、このあたりからずっと中を見ていって、内容が正確でわかりやすいなど。それからあと、非常に調和がとれているなどというのと、写真や資料や本文との関連で学習しやすいんじゃないかなというふうに思ったのが、日本書籍新社でございました。

森本委員 私も、日本書籍新社だと最初の時点で世界や地域を本当に大きくとらえていて、その時点で、まず導入部分がすごく入りやすいんじゃないかということと、それ以降の説明とかもとてもわかりやすく読みやすかったという感じがするので、日本書籍新社がいいのではないかと思いました。

竹尾委員長 ほかに討論はございませんか。 討論なしと認めます。

それでは、ここで社会（地理的分野）について採決をいたしたいと思います。現在使用しております日本書籍新社でよろしいでしょうか。賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

全員賛成。よって、社会（地理的分野）は日本書籍新社に決定しました。

次に、社会（歴史的分野）についてを議題とし、教育指導課長の説明を求めます。

前島教育指導課長 社会の歴史的分野の教科書は9社ございます。

初めに、東京書籍は、わかりやすさが追求されており、内容は基本的なものである。表記は読みやすく、見やすくなっている。内容、分量が少な過ぎて、戦後史などの記述が少ない。また、大きな図が多く本文が少ない。

次に、教育出版は、單元ごとに1行で学習のポイントを示しているのはわかりやすい。授業時数に合った構成になっていて、表記は読みやすい。四大文明と古代の記述が少なく、全体のバランスに課題があり、本文の横幅も狭い。

清水書院は、基礎的・基本的な事項は押さえられていて理解しやすい。授業時数に合った構成と分量になっていて、表記・表現はわかりやすくなっている。系統的に教材を選択配置する工夫が欲しい。写真、図版が小さい。

次に、帝国書院は、わかりやすさが追求され、歴史的事象を多面的にとらえようとしている。授業時数に合った構成になっていて、表記は読みやすい。世界史の記述が少なく、国際理解の観点から、バランスに課題がある。分量は他社に比べ少ない。

次に、日本文教出版（旧大阪書籍版）は、わかりやすさが追求されていて、日本史・世界史を関連させた構成となっている。授業時数に合った構成と分量になっていて、表記・表現はわかりやすい。人類の始まりと文明のところが簡単過ぎるなど、もう少し内容が詳しいほうがよい。導入部分が漫画であるが、中学生の教科書としては遺跡などの写真等がふさわしい。

次に、日本文教出版は、わかりやすさが追求されている。授業時数に合った分量になっていて、表記・表現はわかりやすい。単元の設定が本文とコラムに分かれていて、歴史の流れと時代の特色がとらえにくい。

次に、扶桑社は、字の大きさなど読みやすさが図られている。教材などの取り上げ方に差があり、全体構成のバランスに課題がある。基礎的・基本的な内容を超えて扱っている人物や用語が多く、主観的表現も多く見られる。

次に、日本書籍新社は、基礎的・基本的事項を十分押さえており、生徒が理解しやすい内容となっている。また、歴史的事象を多角的にとらえ、生徒が興味・関心を持って取り組める内容になっている。単元・教材等が調和のとれた構成になっており、授業時数に適した分量となっている。読みにくい漢字に振り仮名をつけるなどの工夫や、図版がその時代を代表するものとなっている扱いやすいなど、適切である。

最後に、自由社は、基礎的・基本的内容を発展的にとらえさせようとしており、写真と地図はわかりやすい。教材の取り上げ方に偏りがあり、全体的なバランスに課題がある。日本と世界の関連が希薄である。文字が小さく、読みづらい。難しい用語や主観的表現が見られ、本市の中学生にはなじみにくい。

以上、9社の中で現在使用している日本書籍新社が高い評価となっております。

以上でございます。

竹尾委員長 説明が終わりました。質疑を受けます。

角田委員 質問したいのです。歴史的分野で非常に不思議に思いましたのは、この調査部会の調査資料も拝見しましたし、教科書検定で非常に望ましいとされた教科書が、使用上の便宜を除いて、他の教科と比べて大変評価が低いという現実を拝見しました。そのときの話し合いや調査結果はいかがだったんですか。ちょっとお話をしていただけませんか。

木曾田無第四中学校校長 評価が低い会社があるという……。

角田委員 極度に低い出版社が2社ばかりございました。

木曾田無第四中学校校長 はい。やはり、2社は特にそうなんですが、中学生が学ぶことにおいては教科書としてはどうかという話が一番多くありました。高校生とか、あるいは大人が読むのでは、いろんな語彙の関係ですとか理解力が高まっていますから、それはそれなりに理解はできるんじゃないかなと思うんですが、やはり中学1年生、13歳、14歳が学んでいくわけですので、その辺の内容的な用語ですとか表現の仕方ですとかが重要になってくると思います。ですから、内容的にはいいことが書いてあっても、果たして生徒たちの発達

段階に応じて、それだけの理解力でその教科書が意図している目標が達成できるかどうか、その辺が一番問題になりました。そういう意味で、やはり基本的に内容的にわかりやすい、理解しやすい教科書が評価が高く、中学生にとっては理解しにくいんじゃないか、あるいは誤解が生まれるんじゃないかなという、そういうものについてはかなり評価が低くなってしまったという傾向がございました。

角田委員 ありがとうございます。

竹尾委員長 ほかに質疑はございませんか。 質疑を終結します。

これより討論に入ります。

森本委員 例えば、扶桑社とか自由社の教科書というのは、本当に読んでいてとても興味深い内容であったりはするんですが、やはり中学生にとって難しいのではないかという内容が多くあって、中学生が学ぶにはちょっと難度が高いのではないのかなと私は感じました。それで、ほかの教科書については、基本的にはそんなに大差がなくは感じたのですが、やはり日本書籍新社の教科書が一番歴史部分に関しては記述が整理されているような感じがしてとても読みやすく思いましたし、わかりやすい内容になっているのではないかと感じました。

竹尾委員長 ほかに討論はございませんか。

沼本委員 この歴史的分野というのは私もなかなか難しく、それぞれの教科書を読むと非常に内容が詳しいことが書いてあるわけですが、やはり、先ほどの校長先生のお話にもありましたが、子どもの発達段階というようなこととか、もう一つは授業時数との関係の中で量的にかなり多い教科書がありますし、それから発達段階の中で、中学校の1年、2年の中でちょっと難しい表現があったりということで、そういうような観点で考えますと、現在使っている日本書籍新社がいいのではないかなと。わかりやすいということと、もう一つは資料と文のバランスがよかったり、それから注記があるわけですが、非常に発展的な内容にずっとつながっていくというようなこともありますので、一番扱いやすいのではないかなというふうに思います。

竹尾委員長 ほかに討論はございませんか。

角田委員 私も同じような意見なんですけど、やはり歴史はまず公正であること、さまざまな資料の活用が容易であること、そして多面的・多角的な考察ができるということ、そして何よりも系統的でわかりやすいということが大切なのかなというふうに思っておりますので、そういう意味からいって、今使われている日本書籍新社がいいのかなというふうに結論しました。

竹尾委員長 ほかに討論はございませんか。 討論なしと認めます。

ここで社会（歴史的分野）について採決をいたします。現在使用しております日本書籍新社でよろしいでしょうか。賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

全員賛成。よって、社会（歴史的分野）は日本書籍新社に決定いたしました。

次に、社会（公民的分野）についてを議題といたします。教育指導課長の補足説明を求めます。

前島教育指導課長 それでは、社会の公民的分野の教科書について、御説明します。

8社ございます。

東京書籍は、学習内容を深める工夫がされており、人権に関する読み物がよい。表現はほぼ適切である。掲載されている資料が豊富で新鮮である。発展的な内容が高度でわかりづらい面がある。個人と社会の学習が第2章政治に入っていて学びにくい。

次に、教育出版は、基本的内容が厳選されており、現代社会、政治経済、地球社会を大きな流れでとらえようとしている。図表、グラフや資料は見やすく、利用しやすくなっている。基本的人権や地球環境に関する記述は不十分である。絵や写真が多過ぎる嫌いがある。

次に、清水書院は、公民的資質が養える内容となっており、発展的な事柄にも対応している。わかりやすい内容で、生徒の関心を引き出す教材が選ばれている。身近な問題から社会の問題、最後は国際社会へと学習が広げられる構成となっている。表現が的確で、丁寧な記述となっている。写真、資料、挿絵などが適切に配置されている。

次に、帝国書院は、内容が発展的に考えられるよう工夫されている。表現は易しく、図やイラストなどは大きく見やすくなっている。政治、経済とも説明が系統的になされていない。経済学習が先になっていて扱いにくい。図のページが多過ぎて、その分本文が少なく、基本的事項の理解が不足する。

次に、日本文教出版（旧大阪書籍版）は、単元、教材などのバランス、調和はとれている。分量は適切であり、図や写真などは豊富である。本文に使われている用語の説明は不十分である。表現や資料に難しいものがある。また、巻頭の漫画は必要か疑問である。

次に、日本文教出版は、身近な問題から社会の諸問題を扱うよう構成されている。イラストや図が豊富で、資料も見やすくなっている。全体に本文部分が少なく、特に人権に関して簡略過ぎる。生徒の関心を引き出す工夫がもう一步である。

次に、扶桑社は、全体の分量や配分はほぼ適切である。中学生にとって難しく取り組みにくい内容である。経済学習が先で扱いにくい。国民主権の記述があいまいで、基本的人権も具体的な記述が少ない。表現が簡潔でないところがあり、本文との関係が明確でない資料も見られる。

最後に、日本書籍新社は、基本的内容が適切に厳選されていて、社会に目を向ける問題提起もよい。教材が偏ることなく、平和に関する記述も丁寧に書かれている。表現が適切であり、写真や資料が適切に取り上げられていて読み取りもしやすい。第2章経済と第3章政治の整列が逆のほうがわかりやすい。

以上、8社の中で現在使用している清水書院が高い評価となっております。

以上でございます。

竹尾委員長 説明が終わりました。質疑を受けます。

森本委員 質問なんですけども、経済学習が先になっていると取り扱いにくい理由というのを教えていただけますか。

木曾田無第四中学校校長 学習指導要領では特にどちらということはないんですが、順番的には経済も先でもいいと思うんですが、1、2年で歴史を学んできておりますので、戦後の歴史と、それから政治ですね。日本国憲法ができたいきさつも、その前に生徒としてみれば学習していますので、その戦後の政治、憲法がどういうふうになっていったかという歴史を

背景に、先に政治学習が学習しやすいんじゃないかなという気がしております。そういう点で経済学習が先にきますと、そこで分断されて時間的に間があいて、せっかく歴史学習をしたのがその理解がだんだん薄れて、最後に政治学習がくると、これは学びにくい、理解がしにくいんじゃないかなという、そういう背景があります。

以上です。

角田委員 私は、公民というのは民主主義に関する理解を深めることが大事だと思っておりますが、中学生にとって公民的資質が養える内容であるという、この検討はどのようになされたのか、ちょっと教えていただきたいです。

木曾田無第四中学校校長 公民的資質というのなかなか難しいんですけども、地理、歴史、政治、経済、社会というものを学んできて、全体的にこれまでの社会科の学習を総合的に含めて理解して、それでそれを身につけて社会市民として、公民として、十分ないろんな政治的な判断、経済的な判断などがしていけるという点で、地理、歴史の学習なんかも関連させて学びやすいということではないかなと。ちょっと答えになっているかどうかわからないんですけども、申し訳ありません。

竹尾委員長 ほかに質疑はございませんか。 質疑を終結します。

これより討論に入ります。 討論なしと認めます。

ここで社会（公民的分野）について採決いたします。現在使用しております清水書院でよろしいでしょうか。賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

全員賛成。よって、社会（公民的分野）は清水書院に決定しました。

次に、地図についてを議題といたします。教育指導課長の補足説明を求めます。

前島教育指導課長 社会の地図の教科書は2社ございます。

まず、東京書籍は、基本的・基礎的内容を配していて、基本図も見やすい。表記・表現は平易である。内容及び各種資料が生徒の興味・関心を引き出す内容となっているような工夫が欲しい。

帝国書院は、地理の学習をする上での情報が多く、生徒の興味・関心を引き出す工夫もされている。構成も諸地域のバランスがよく、分量も適切である。資料、統計も充実してわかりやすく、学習しやすいものとなっている。

以上、2社の中で現在使用している帝国書院が高い評価となっております。

以上です。

竹尾委員長 説明が終わりました。質疑を受けます。

角田委員 内容に地図帳の使い方が示されていますよね。その東京書籍と帝国書院のを比べてみますと、生徒の興味や関心を引き出す工夫が非常にいいと帝国書院のほうは出ていたんですけども、何が興味・関心を引き出すんだろうと思って見てみたんですけど、地図帳の使い方がちゃんと示されているところなのかなというふうにしか見られなかったんですが、何かいいアドバイスがあったら教えてください。

木曾田無第四中学校校長 教える側の教師の扱い方によって違って来るんじゃないかなと思います。ただ、資料の面で、巻末資料とかその辺の調べ学習で、帝国書院のほうはやはり各

国の比較ですとか、輸出とか産業の比較でも、調べるときに上位の国とか上位のものとかが非常にすぐ目に入るといいますが、とらえやすいんですね。ですから、社会科も時間がそんなに多いほうではありませんので、そういう点で、調べ学習で生徒が調べてみなさいとか探してみなさいといったときにすぐに自分で見つけられて、その辺を自分でまとめて表をつくるとかレポートをまとめるというときに、その辺が非常に配慮されているかなと。時間的に東京書籍のほうは探すのに苦労し、そこで生徒が見るときにかなり時間がかかってしまうところがあって、その辺は帝国書院のほうが資料的に非常に洗練されているかなという印象を持ちました。

角田委員 ありがとうございます。

竹尾委員長 ほかに質疑はございませんか。 質疑を終結します。

これより討論に入ります。

森本委員 やはり、帝国書院のほうが資料と地図のバランスがすごくいいような気がしたんです。東京書籍のほうは資料がどんとあって、地図がその分小さくなってしまっていることが多くて、ちょっと見づらいような感じがあって、そういう意味では帝国書院のほうが全体的なバランスがよく、地図帳としての見やすさというのはあるんじゃないかなと思いました。

竹尾委員長 ほかに討論はございませんか。

沼本委員 この地図もそうなんですけれども、まず最初に見たときに生徒の興味・関心を引き出すということが大事だと思います。それからもう一つは、こういう教科は調べ学習を主にして、そして子どもたちの課題解決能力をつけていくわけですけれども、そういうときにやっぱり資料が豊富であるということが大きな決め手になっていくんじゃないかなと。それにあとは表記や表現が平易であればいいのではないかなと。そういう観点で、私は帝国書院のほうがいいかなというふうに思います。

竹尾委員長 ほかに討論はございませんか。 討論なしと認めます。

それでは、ここで地図について採決いたします。ただいまの御説明等から、現在使用しております帝国書院でよろしいでしょうか。賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

全員賛成。よって、地図は帝国書院に決定いたしました。

次に、数学についてを議題といたします。教育指導課長の補足説明を求めます。

前島教育指導課長 数学の教科書は6社7種目ございます。

初めに、東京書籍は、発展的課題について大変丁寧に扱われている。構成、分量で演習の問題量と扱っている内容のバランスがよくできている。3年の内容の平方根、多項式、二次方程式という配列は独特で、賛否が分かれた。色使いやイラストは凝ってきれいだが、全体的に窮屈な感があり、発言やメモをとるときの余白がない。

次に、大日本図書は、分量は200ページを超える量があり、基礎的なところから発展的なところまで網羅されている。高校へつながるような発展的課題が見開きで丁寧に扱われている。すべて見開きの2ページ単位でまとめられているので扱いやすい。字体、色使いが見やすく、余白など適度にあり、計算で書き込んだりできるような工夫がされている。

次に、学校図書は、巻末に細かく例がたくさん用意されている。証明等は簡略化された部

分が多く、もう少し丁寧な解説があるとよい。構成、分量では、単元ごとの計算練習の問題がやや少な目である。発展的学習において、比例、反比例を含め、一次関数や二次関数を関連させた交点や面積を求める問題が1問だけで物足りない。

次に、教育出版は、発展的な内容では、円に内接する四角形の性質や接弦定理に関する記述がない。放物線の二次関数のグラフの取り扱いに関して、特徴や練習させるところで軽く扱われているため、定着するにはやや難がある。

次に、新興出版社啓林館からは、「未来へひろがる数学」と「楽しさひろがる数学」の2種の教科書が出版され、掲載されている内容は同じですが配列が変えてあります。

新興出版社啓林館「未来へひろがる数学」は、2部構成になっており、1部のほうで1年間の内容を流して学び、2部のほうで補充問題、発展問題などを配列している。2学期末までに内容を終え、3学期には補充問題や実践的な課題や問題を練習していくものとなっている。色使い、イラストが豊富だが、生徒が自主的に考えていくのを阻害するような挿絵が多い。教科書の分量がスリムでページ数も少なく、単元ごとの練習問題が少ない。

次に、新興出版社啓林館「楽しさひろがる数学」は、他の教科書と同様、基本問題が終わると、その章末に補充問題、進化発展を深める問題が掲載され、巻末には発展課題や選択、習熟を深めるものがまとめられている。色使い、イラストが豊富だが、生徒が自主的に考えていくのを阻害するような挿絵が多い。教科書の分量がスリムでページ数も少なく、単元ごとの練習問題が少ない。

最後に、日本文教出版は、一般的な内容、構成となっている。問題の量も標準的である。配列に関してやや見づらく、基本問題、章末の発展問題、巻末の高校へつなげる発展的な課題ごとに色使いの工夫が欲しい。色使いが乏しく、重要度に関してもう少し色とかイラスト等を使うとよい。

以上、6社7種目の中で東京書籍と現在使用している大日本図書が高い評価となっております。

以上でございます。

竹尾委員長 説明が終わりました。質疑を受けます。

角田委員 数学の内容を見てみますと、ほとんど教科書に差がないように思ったんです。ですけれども、数学は学び方に非常に個人差があると思われそうですけれども、生徒が自主的・主体的に自分の力で学習を進められるという点で、各社に違いがあったのか、そういうことが話し合われたのか、その辺をお願いします。

西嶋田無第二中学校校長 今、委員からあったように数学に関してはA社とB社で教える内容が異なるなんていうことはございませんで、各社教える基礎・基本は統一性がございます。ただ、この様式4のほうの報告書にも書かせていただいたんですが、現在の学習指導要領で歯どめ規定というものがあまして、最低基準としてこれだけは教えなさいよというものがあるんですが、さらにそれを超えて本来中学校の範囲ではなくて、高等学校に入ってから学ぶものも学習していいというふうになっています。そういったものの内容が、各社でいろいろ取り上げているものの内容というのがかなり差があります。その中で特に東京書籍であるとか大日本に関しては、実際に私立高等学校なんかに入學する際には検査問題として出さ

れるような問題で、学習指導要領を超えているようなものも、こういったものは大変重要だし、また、高校につながるという意味で覚えておいたほうがいいたろうというので大変丁寧に扱われているのと、またそれが発展的な内容であるというような項目、配列等が非常に見やすく、子どもが自主的に勉強するの也能するというふうに話し合われました。

竹尾委員長 ほかに質疑はございませんか。 質疑を終結します。

これより討論に入ります。

角田委員 それでしたら、ほとんど差がないのであれば、子どもがなれ親しんでいる、現在使用されている教科書がいいのではないかしらと思いました。

竹尾委員長 ほかに討論はございませんか。

沼本委員 数学も先生が一方的に教えるのではなくて、みずから考える力をはぐくむような、そういうことが配慮されていることが、今子どもたちに求められている課題解決能力を身につけることではないかなというふうな、そういう観点で見ますと、大日本図書とそれから東京書籍、この二つはあんまり差はないんですけどいいのかなと思います。大日本図書は、先ほども説明がありましたように、非常に余白が多いんですね、教科書の。だから子どもたちがそういうときに直接書き込みをしてみるとかということに勉強しやすいことと、もう一つは子どもが間違いやすいところを具体的に指摘できるというようなことで、大日本図書がいいのではないかなというふうに思います。

竹尾委員長 ほかに討論はございませんか。 討論なしと認めます。

ここで数学について採決いたします。御提案のありました現在使用しております大日本図書でよろしいでしょうか。賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

全員賛成。よって、数学は大日本図書に決定しました。

次に、理科（第一分野）について教育指導課長の補足説明を求めます。

前島教育指導課長 理科（第一分野）の教科書は5社ございます。

初めに、東京書籍は、基礎的事項をしっかりと学習できる内容と記述になっている。構成は、巨視的な現象から入り、細部に至るまで現象を説明している。発展的内容や実用的内容に力点が置かれ、やや分量が多い。写真や挿絵が生徒にとってはやや難解な傾向がある。

次に、大日本図書は、基礎的・基本的な内容を習得させる上で適切な事項が書かれている。各単元で生徒の興味・関心を引き出す表記・表現の工夫が見られる。構成、分量ともに適切で、単元・教材等の配列に系統性があり、流れがわかりやすい。平易簡明に記述され、教材、写真、挿絵、資料等が見やすく工夫され、使いやすい。

次に、学校図書は、表現方法が生徒にわかりやすく、生徒の興味・関心を引き出す内容が記載されている。力学的エネルギーの概念がつかみづらい。単元構成は作用・反作用の内容から学習するため、指導しにくい。

次に、教育出版は、基礎的・基本的な内容を習得させる上で適切な事項に厳選され、全体的なバランスがとれている。単元構成は音から始まっているため、指導がしにくい。写真やイラストが交互に入っており、見にくい単元がある。

最後に、新興出版社啓林館は、全体的なバランスがとれていて、基本的な内容をしっかりと

と身につけることができる。もっと発展的な内容が欲しい。写真、図版、イラストなど、全体の構成が見づらい。

以上、5社の中で東京書籍、現在使用している大日本図書が高い評価となっております。

以上でございます。

竹尾委員長 説明が終わりました。質疑を受けます。

角田委員 質問です。理科については小学校と中学校の接続を考慮して改訂されていると聞きましたが、中学の理科は大きく変更したのですか。

田中保谷中学校副校長 申し訳ありません、ちょっと意味がとらえられなかったんですけども、今現在使われている教科書なんですけど、中学になりますと実験、観察がとにかく第一になりますので、それを中心に展開しています。時間数がかなり減らされていますので、それがきちんと子どもたちに学習できるような構成になっていまして、正直言って小学校との関連までは私どもとしてつかめていませんので、申し訳ありません。

角田委員 ちょっとそれに続いて、理科第一分野、第二分野を通して各社で扱っている実験方法などに違いがあるようなんですけども、生徒の学びに大きく影響はないんですか。

田中保谷中学校副校長 実験の方法自体はそれほど影響はないと思います。ただ、実験をする上での進めやすさなどは工夫している教科書はあると思っております。中には写真とか、そういうものだけで実験を進めているものがありまして、そうするとかなり教員の補足説明が求められて、自分たちで実験をしていくという上でやっぱり難しいかなと感じます。また、後で復習したりなんかするときにも、それなりにきちんと丁寧に書かれているほうが具体的で使いやすいかと思えます。

角田委員 ありがとうございます。

竹尾委員長 ほかに質疑はございませんか。 質疑を終結します。

これより討論に入ります。

沼本委員 この教科書を読みまして、やはり大日本図書とそれから東京書籍がほとんど差がなくていいんじゃないかなというふうに私自身は考えました。ただ、東京書籍の場合は少し内容が多い。本当に理科は教科書に載っている実験をすべてやると授業時数を全部全うすることはできないんじゃないか。そのように東京書籍のほうがやや内容的な面が多いので、どうかなというふうに思いました。

それから、もう一つは、先ほどの質問にもありましたように、教科書によっては教材の内容が大分違ったり、それから先生方が教科書に沿って開発をした実験装置とかがあるわけなので、できたら今まで開発をした大日本図書のほうであと2年間やっていただければいいんじゃないかなと思います。

竹尾委員長 大日本図書ですね。

ほかに討論はございませんか。 討論なしと認めます。

ここで理科(第一分野)について採決いたします。ただいま沼本委員から御提案がございましたように、現在使用しております大日本図書でよろしいでしょうか。賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

全員賛成。よって、理科（第一分野）は大日本図書に決定いたしました。

次に、理科（第二分野）について教育指導課長の補足説明を求めます。

前島教育指導課長 理科（第二分野）の教科書は5社ございます。

初めに、東京書籍は、基礎的・基本的内容が充実し、説明も詳しく、全体的なバランスもとれている。単元・教材の配列が、巨視的現象から入り、系統立っているので、理解しやすい。ポイントが絞りづらい面がある。写真、挿絵がやや難解で、資料を多用し過ぎる傾向があり、生徒には難しく感じる。

次に、大日本図書は、表現が適切で要点がつかみやすく、生徒が理解しやすい内容になっている。生徒のレベルに合っていて、バランスがとれている。まとまりがあり、系統的な流れがわかりやすく、授業の組み立てがしやすい。写真、グラフ、挿絵が見やすく、生徒の興味・関心を引き出す工夫がある。他社で扱っている内容について記述がない部分がある。

次に、学校図書は、基礎的・基本的な内容を学ぶ上で適切な事項が取り扱われている。もっと発展的な内容が欲しい。内容があまり系統立っていない。

次に、教育出版は、基礎的・基本的な内容を学ぶ上で適切な事項が取り扱われ、全体的なバランスがとれている。掲載されている写真や図などはわかりやすくよい。構成は、他社で扱っている部分が欠けていたり、動物の種類や生活、地震についての内容が軽く扱われていたりする。

最後に、新興出版社啓林館は、全体的なバランスがとれている。基礎的・基本的な内容を適切に取り扱っており、基礎的な内容をしっかり身につけることができる。巨視的な現象から入り、さらに細部に至るまでの現象をよく説明してあり、流れとして理解しやすい。もっと発展的な内容が欲しい。説明が少なく、図や写真に頼り過ぎ、単元のまとめ方や力試しにページ数を使い過ぎている。

以上、5社の中で東京書籍、現在使用している大日本図書、教育出版が高い評価となっております。

以上でございます。

竹尾委員長 説明が終わりました。質疑を受けます。

森本委員 何社かに他社で取り扱っていない内容があるというのがあるんですが、それは取り扱ってなくてもいいものなのですか、それとも取り扱われたほうがよいと思っていられるというようなことなのでしょうか。

田中保谷中学校副校長 取り扱っている内容は多少、教科書会社によって違っております。ただ、検定を通過しておりますので、必要なものについては全部備えています。理科の特に第二分野に関しましては、これ以外にも資料集がありまして、そちらを使っているいろいろ調べたりなんかすることが多いものですから、そういった点では支障はないと考えております。

竹尾委員長 ほかに質疑はございませんか。

角田委員 もう一つ質問をお願いします。理科の第二分野で、本市における地域の実態と教科書の関連で非常にいいという評価がされていたように思うんですけども、そういう面で考慮すべき点をちょっと教えてください。環境とか自然とかいろいろ出ておりましたので、こんなところかななんて思いながら教科書を拝見したんですけど……。

竹尾委員長 いかがですか、理科の担当の校長先生は。基本的には選択のときに配慮したかどうかということですよ。今、教科書を選ぶに当たって、角田先生は今おっしゃった環境とか自然とか、この地域との関係においてそこを配慮して、その点について極端だけど丁寧な説明がしてあるとか、そういうようなことを重視しましたかということではないかと思いますが。

角田委員 質問の仕方が悪かったでしょうか。

田中保谷中学校副校長 そういったものだけでなく、この辺で資料が手に入りやすいということがまず第一であります。まず観察については、実物を見ながらとかそういったことが大事だと思っていて、そういう意味で西東京市としてはいろいろ手に入りやすいもの、周りにあるものを重視しております。

角田委員 ありがとうございます。

竹尾委員長 ほかに質疑はございませんか。

宮田委員 生徒のレベルに合わせてバランスがとれているというのが一つの条件になっているんですが、生徒のレベルに合わせているというそのレベルというのはどういうふうにお考えなんでしょうか。

田中保谷中学校副校長 レベルという表現はしていますけれども、やはり実験とか観察をする上でも今、子どもたちは割とイラストになじんでいまして、そういったものをうまく活用していくと子どもたちに受け入れやすい、逆に写真とか図だけですと、それからいろいろ考えて観察の仕方とか実験の仕方まで考えていくとなると、今の子どもたちにとってはかなり難しいかなと考えております。

竹尾委員長 ほかに質疑はございませんか。 質疑を終結します。

これより討論に入ります。

森本委員 やはり、東京書籍と大日本図書がとてもわかりやすい感じがしたんです。特に東京書籍はやっぱり圧倒的に文章量が多くて、言葉での説明がすごく多いので、そういう意味では読んでいけばわかりやすいんですが、ただ、文章が多過ぎたり、写真や挿絵とか資料がすごく多いので、そういう意味では子どもたちが全部を見ていると、ちょっと難解に感じるかなという部分を感じて、そういう意味では、現在使用されている大日本図書のほうがポイントが絞りやすいというか、すっきりしているような感じがしたんですが。

竹尾委員長 ほかに討論はございませんか。

沼本委員 東京書籍、それから大日本図書と私も読んでみて、両方ともいい教科書だなと思っています。私の経験でいきますと、第一分野の教科書と第二分野の教科書が出版社が違っていると、実際に指導の面で非常にやりにくいんですね。そういう意味では第一分野のほうで大日本図書を採用していますので、今回も大日本図書を採用したほうがいいんじゃないかなと思います。それから、東京書籍はやはり読んでみますとやや難しく感じるということもありますね。

竹尾委員長 ほかに討論はございませんか。 討論なしと認めます。

理科（第二分野）について採決いたします。ただいま沼本委員からもお話がありましたように、第一分野、第二分野、同じ出版社の教科書のほうが使いやすいということで、大日本

図書の推薦がございましたが、それでよろしいでしょうか。賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

全員賛成。よって、理科（第二分野）は大日本図書に決定いたしました。

次に、音楽（一般）についてを議題といたします。教育指導課長の補足説明を求めます。

前島教育指導課長 音楽（一般）の教科書は2社ございます。

教育出版は、新しい教材が数多く取り扱われている。写真、イラストが多く用いられている。教科書全体を4つのカテゴリーに分けている特色があるが、表現、鑑賞の領域が混在しているため、基礎的学習では活用しにくいという意見がある。鑑賞の領域の内容があまり詳しく取り扱われていないとの意見がある。

次に、教育芸術社は、音楽の成り立ちや楽典が学びやすく、選曲も西東京市の生徒の実態に合致したものとなっている。楽曲のまとめについては、表にまとめるなど、わかりやすい記述になっている。大切な音楽の記号などは歴史的な経過も踏まえた記述がある。写真、挿絵、資料が豊富に用いられている。

以上、2社の中で現在使用している教育芸術社が高い評価となっております。

以上でございます。

竹尾委員長 説明が終わりました。質疑を受けます。

沼本委員 選曲も西東京市の生徒の実態に合致したものというのは、具体的にはどんなものですか。

加藤田無第二中学校副校長 例えば、教育芸術社の中で取り扱われているものの一つとして、赤とんぼとか、翼をくださいなど、子どもたちにとっても非常になじみのある曲やなんか収録されているというところが一つの理由となっております。

竹尾委員長 ほかに質疑はございませんか。

角田委員 音楽は専門性が問われますので、内容が生徒にとって負担にならず、楽しみながらバランスよく配列されているというのがいいなと思いました。ですから、そういう面からいくとどっちなんだろうと今もずっと悩んでおります。

竹尾委員長 いかがでございますか。2社の中のどちらかということでございます。森本委員、御意見ありますか。

森本委員 私は、単純に見やすさという意味で教育芸術社の教科書のほうがとてもすっきりとまとまっているような気がして。教育出版は、こちらにもありましたけど古めかしいレイアウトや色使いとなっているというちょっと暗いようなイメージを持ちまして、特にほかに内容についてすごく大きな差というのは感じられなかったんですが、それだけにそういう部分での評価があってもいいかなと思ったんですが。

竹尾委員長 ほかに質疑はございませんか。

なかなか決定的な理由は大変なようでございますが。

角田委員 鑑賞の内容があまり詳しく扱われていないというのがどこかにあったんですけども、鑑賞の内容というのは中学生にとっては詳しいほうがいいんですか。ちょっとその辺を教えてください。

加藤田無第二中学校副校長 教育出版社のほうでもそれぞれのカテゴリーの中でその曲に付

随するところでの歴史的な経過等について触れられているんですが、実際のところ、どのような歴史的な経過の中でこういう曲が成り立ってきたのかというふうなところ、あるいは特に古典的なところを取り扱う意味においては、少々取り扱いをする上での課題がまだあるかもしれないというふうな意見があったというところでございます。その点では、教育芸術社につきましては、非常にまとまりがよくできているというふうなところございました。

角田委員 わかりました。

竹尾委員長 ほかに質疑はございませんか。 質疑を終結します。

これより討論に入ります。 討論なしと認めます。

ここで、音楽（一般）について採決いたします。副校長先生からのお話にもありましたように、現在使用している教育芸術社がよろしいという御意見でございましたが、賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

全員賛成。よって、音楽（一般）は教育芸術社に決定いたしました。

次に、音楽（器楽合奏）についてを議題とし、教育指導課長の補足説明を求めます。

前島教育指導課長 音楽（器楽合奏）の教科書は2社ございます。

まず初めに、教育出版は、リコーダーについては曲ごとにアルトリコーダーの運指がイラストで確認できる記述になっている。和楽器など、日本の伝統音楽について多くの教材が取り扱われている。練習曲については、基礎的な曲と発展的な曲が多く、段階的に学ぶことができるような教材が少ないとの意見がある。リコーダーは、中学校における器楽の中心であるにもかかわらず教科書の後半に配置されているため、活用しにくいとの意見がある。

次に、教育芸術社は、各楽器の基礎的な奏法を身につける上で適切な事項に厳選されているため、中学生にも取り扱いやすいものとなっている。楽器ごとに単元が系統的にまとまっており、練習曲も基礎的なものから発展的なものまで、技術が上達しやすいようバランスよく配列されている。楽器ごとに分かれていて見やすい。写真が豊富であり、各楽器の構え方や基本的な奏法についてわかりやすく記述されている。

以上、2社の中で教育芸術社が高い評価となっております。

以上でございます。

竹尾委員長 説明が終わりました。質疑を受けます。

森本委員 今現在、実際のところ器楽というのは、教科書のほうでは篠笛ですとか琴、太鼓、ギター、アルトリコーダーなどが扱われていますけども、現実にはどのぐらいの楽器を実際に指導するのでしょうか。

加藤田無第二中学校副校長 日本の伝統音楽に関しては、現在の学習指導要領でも大変重視されているところがございます。そのうち、今、各学校で比較的行われているのは、和太鼓がやはり中心になっているところかと思えます。また、琴等も装置があれば使えるところですが、いわゆる和楽器のうち、例えば笙とか箏とか専門的なものについては、まず楽器の購入等ができないこと、それからその取り扱いが難しいことなどもあり、例えばその音楽を鑑賞の形で聞くとか、あるいは絵で見るというふうな形で済まされていることが多いかと思えます。

森本委員 現行はやはりアルトリコーダーのみと考えて、実際に演奏するのはリコーダーが中心ということですか。

加藤田無第二中学校副校長 まず、全員の生徒が確実に学ぶものとしては、アルトリコーダーが、小学校のソプラノリコーダーからの接続で中心となっております。また、ギターについても取り扱いが多くの学校でなされているということでもあります。

森本委員 はい、結構です。

竹尾委員長 ほかに質疑はございませんか。

角田委員 音楽のテキストとしては、先ほどの理科と同じように音楽の一般と器楽はその関連において同一出版社のほう望ましいんじゃないかなと思っているんですけど、そのあたりはいかがなんでしょうか。

加藤田無第二中学校副校長 委員の中からもそういうような意見は出ておりました。

角田委員 やっぱり。

竹尾委員長 ほかに質疑はございませんか。 質疑を終結します。

これより討論に入ります。

角田委員 それでは、内容や構成、表現、ともに教育芸術社のほうがよい評価のように思います。したがって、一般と同じということで私は推薦します。

竹尾委員長 ほかに討論はございませんか。 討論なしと認めます。

音楽（器楽合奏）について採決いたします。これも音楽（一般）と同一出版社の教科書のほうがより適切だという御意見もございましたので、教育芸術社でよろしいでしょうか。賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

全員賛成。よって、音楽（器楽合奏）は教育芸術社に決定いたしました。

次に、美術についてを議題とし、教育指導課長の補足説明を求めます。

前島教育指導課長 美術の教科書は3社ございます。

初めに、開隆堂出版は、生徒の作品が多く、生徒の学習意欲を高める効果がある。3年間を見通した題材設定や厳選された作品が掲載されている。参考作品や題材が現代アートのものがやや多い。3年間を通して鑑賞の量が多い。図版、写真の量は多いが、小さい。作品解説の文字の大きさが小さい。

次に、光村図書出版は、生徒作品が少なく、生徒の創作意欲につなげられにくい。3年間を見通した段階的題材設定になっておらず、流れをつかみにくい。鑑賞の内容が中学生には難しい。3学年共通して鑑賞の量がやや多い。図版、写真が小さく、発色が悪い。全体的に文字の大きさが小さい。

最後に、日本文教出版は、生徒作品が多く取り入れられ、生徒の学習意欲を高める効果がある。3年間を見通した題材設定や厳選された作品が掲載されている。扱っている題材に偏りが無い。鑑賞の量は適量である。図版、写真が大きく美しく、文字の大きさ、配置が見やすい。

以上、3社の中で開隆堂出版、現在使用している日本文教出版が高い評価となっております。

以上でございます。

竹尾委員長 説明が終わりました。質疑を受けます。

沼本委員 教科書によって少し差があるんですけども、日本美術と例えば西洋美術とか、そういうものの割合というのは何か規定などはございますか。

大野ひばりが丘中学校校長 教科書によってどこで扱うかという差はあるんですけども、洋画と日本美術の全体的な割合というのはそれほど差はありません。ただ、その扱い方に、主要なところで扱うとか歴史の部分で扱うという、その扱い方に差があるというふうに感じます。

竹尾委員長 ほかに質疑はございませんか。

角田委員 もう一つ質問をお願いします。美術教科書というのは、全体的に鑑賞教材としての要素が強いように思ったんですけども、そうなんですか。その視点からちょっと教えてください。

大野ひばりが丘中学校校長 新しい学習指導要領の中では鑑賞に力点が大分置かれるようにはなっているんですけども、実際には鑑賞と創作活動というのがバランスよく配置されていないとまずいです。あまりにも鑑賞の量が多過ぎると教科書自体としては制作にかかわる部分での記述の部分がやや量が足りなくなってくるというような部分があるので、その辺のバランスがポイントにはなっているかなと思います。

竹尾委員長 ほかに質疑はございませんか。

沼本委員 今、日本では漫画がかなり取り上げられているんですけども、漫画もやっぱり美術のことをもちろんやると思いますけれども、教科書の中ではかなりそういうものは取り扱われているんでしょうか。

大野ひばりが丘中学校校長 新しい学習指導要領の中でもそういうものについては扱うということになっております。それから、今現在アニメーション関係に関しては、世界に日本の素晴らしい芸術であるという認識を持たれておりますので、一律に漫画ということ切り捨てることはしません。

竹尾委員長 ほかに質疑はございませんか。 質疑を終結します。

これより討論に入ります。

沼本委員 日本文教出版を現在使用しているんですけども、この教科書はほかの教科書に比べて日本美術を非常に多く取り扱っていて、バランスもよく配置されているというのは、やっぱり日本の文化を非常に大切にしている、そういう姿勢がよく出ているのではないかなと思います。

竹尾委員長 ほかに討論はございませんか。 討論なしと認めます。

美術について採決いたします。ただいま沼本委員からの御提案もありましたように、現在使用しております日本文教出版でよろしいでしょうか。賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

全員賛成。よって、美術は日本文教出版に決定いたしました。

次に、保健体育を議題といたします。教育指導課長の補足説明を求めます。

前島教育指導課長 保健体育の教科書は3社ございます。

東京書籍は、内容についてはわかりやすく表現されている。特に体育編は充実していて、説明がわかりやすい。全体の構成はバランスよくまとめられているが、全体の分量が簡潔でやや物足りない印象がある。文章は簡潔であるが、やや少ない。反面、写真や挿絵の比率が高く、文章とのバランスが欠けている印象がある。

次に、大日本図書は、内容については充実した資料に基づき説明もしっかりと編集されている。全体の構成は特に保健編においてバランスよくしっかりまとめられている。分量的にはやや多目で難易度も高目である。全体的に文章が多く、生徒にとって難しい印象がある。文章と挿絵のバランスはよい。生徒の発達段階から考えると関心、意欲を引き出すのに難しい印象がある。

最後に、学研教育みらいは、内容についてはわかりやすく表現され、充実していて扱いやすい。特に保健編についてはよく整理され、説明文と挿絵などのバランスもよく仕上がっている。全体の構成はバランスがよく、分量的にも適切である。文章が簡潔でわかりやすい。写真、挿絵のバランスもよく、授業を展開しやすい。今年度まで採用されている経緯もあり、教師が教科書を熟知している点からも余裕を持って授業を展開できる。

以上、3社の中で大日本図書と現在使用している学研教育みらいが高い評価となっております。

以上でございます。

竹尾委員長 説明が終わりました。質疑を受けます。 質疑を終結します。

これより討論に入ります。

森本委員 こちらにも書かれているように、現在使用されている教科書で先生方が熟知されていて指導がしやすいということもありますし、実際に読んでみてもとてもわかりやすく書かれていると思いますので、現行の学研教育みらいでよいのではないかと思います。

竹尾委員長 ほかに討論はございませんか。 討論なしと認めます。

保健体育について採決をいたします。ただいま森本委員からの御発言もありましたとおり、現在使用しております学研教育みらいでよろしいでしょうか。賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

全員賛成。よって、保健体育は学研教育みらいに決定しました。

次に、技術・家庭（技術分野）についてを議題といたします。教育指導課長に補足説明をお願いします。

前島教育指導課長 技術・家庭（技術分野）の教科書は2社ございます。

東京書籍は、多様な実習例が掲載され、生徒の興味・関心に対応できる内容になっている。見通しを持って計画的に学習が取り組めるように学習の流れを写真やイラストで示し、学習の目標が明確化されている。基礎的・基本的な内容が丁寧に記述され、重要な語句は色文字で強調して表記されている。

次に、開隆堂出版は、学習の流れや進め方、手順が示され、身近な内容や課題が設定されている。学習の目標を定め、基礎的な知識と技術を習得、活用する構成になっている。さまざまなマークが使われ、記述内容の位置づけや性格を明示し、学習効果を高める工夫がされている。

以上、2社の中で現在使用している東京書籍が高い評価となっております。

以上でございます。

竹尾委員長 説明が終わりました。質疑を受けます。

角田委員 技術分野ではコンピューターに関する情報モラルを扱うと思うんですけども、この視点からの検討はいかがでしたか。特に西東京はコンピューターの活用等力を入れていると思いますけど。

河合青嵐中学校校長 コンピューターの活用につきましては、技術教科の中では基礎・基本の充実ということで、基本的なことを通してやる。その扱いだとか情報モラル的なものにつきましては、当然、技術・家庭科の中でも指導はしてまいりますが、学校の教育活動等の中でそういうモラル的なものはセーフティ教室等を使いながら指導しているという現状がございます。

以上でございます。

角田委員 わかりました。

竹尾委員長 ほかに質疑はございませんか。 質疑を終結します。

これより討論に入ります。

角田委員 となりますと、私は基礎的・基本的な内容が丁寧に記述されて非常にいいという東京書籍を推薦します。

竹尾委員長 ほかに討論はございませんか。 討論なしと認めます。

技術・家庭（技術分野）につきまして採決をいたします。角田委員の御発言にもありましたように、現在使用しております東京書籍でよろしいでしょうか。賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

全員賛成。よって、技術・家庭（技術分野）は東京書籍に決定しました。

次に、技術・家庭（家庭分野）についてを議題といたします。教育指導課長に補足説明をお願いします。

前島教育指導課長 技術・家庭（家庭分野）の教科書は2社ございます。

初めに、東京書籍は、調理実習の仕方など、多様な実習事例が取り上げられ、絵と写真入りで興味・関心を引き出す内容となっている。各分野にわたり生活に直結している内容を具体的に示した「生活アイ」や、技術・家庭が好きになるおもしろい豆知識としての一口メモというコラムが取り入れられ、指導しやすい構成になっている。表現も簡潔で、解説なども丁寧なものになっている。

次に、開隆堂出版については、調べてみよう、考えてみようなど、生徒の興味・関心に応じた学習ができるような多様な学習例が取り上げられている。学習しやすい具体例が示されるなど、工夫した構成となっている。わかりやすい写真、挿絵が使われ、取り扱いやすい。

以上、2社の中で現在使用している東京書籍が高い評価となっております。

以上でございます。

竹尾委員長 説明が終わりました。質疑を受けます。

角田委員 家庭分野では、特に食育の問題が学習内容等々も大きく変わってきているところ

から思うんですけれども、この視点からの検討というのはいかがだったのでしょうか。

河合青嵐中学校校長 会の中でも家庭科としては大切な部分だと考えております。会の中でもそういう話が随分出て、そういう部分でも東京書籍のほうの方がわかりやすいということで、具体的な例が非常に多いということでございます。

角田委員 わかりました。

竹尾委員長 ほかに質疑はございませんか。

角田委員 もう一つ質問なんですけど、技術・家庭分野というのは、生徒が自分の生活に結びつけて学習できるということが大切じゃないかなと思いますし、またキャリア教育との連携も大切と思われるんですけれども、この点からの検討等々はいかがでしたか。

河合青嵐中学校校長 大変難しい質問なんですけど、キャリア教育、手に職をつけるということでの……

角田委員 ちょっと上の技術分野とかかわってしまったかなと思いますが、あわせて言ってください。

河合青嵐中学校校長 技術分野につきましては、やはり普段使っているものをよりよく使うかどうか、その仕組みを理解する、そういったことに視点を置いて指導しております。また、そういったことから興味・関心も増えていきますし、将来に向けてそういう方向に進んでいくということも教科によって芽生えてくるものだと考えております。この話し合いの中では具体的にはその辺でのキャリア教育につなげてという点での話は出てまいりませんでした。

角田委員 わかりました。

竹尾委員長 ほかに質疑はございませんか。 質疑を終結します。

これより討論に入ります。 討論なしと認めます。

技術・家庭（家庭分野）の採決をいたします。これも技術分野と家庭分野、同じ出版社のほうが一押しじゃないかと思っておりますので、現在使用しております東京書籍で一押しでしょうか。賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

全員賛成。よって、技術・家庭（家庭分野）は東京書籍に決定しました。

次に、外国語の英語についてを議題として、教育指導課長に補足説明をお願いします。

前島教育指導課長 外国語の英語の教科書は6社ございます。

東京書籍は、海外表現が豊富で、興味・関心を引き出す内容となっている。分量も適当であり、文法事項の配列もよい。文字よりも絵や写真が多く、レイアウトに凝り過ぎている感があり、読みづらいとの指摘もある。

次に、開隆堂出版は、文法事項がよくまとめられており、入門期の学習内容もわかりやすい。また、各セクションの基本文が明確でコミュニケーション型である。各レッスンに掲載されている「レッツコミュニケーション」やQ & Aなどは活動や復習として扱いやすい。登場人物の挿絵は親しみやすく、すっきりとしていて見やすい。字が細かいことや文字が小さいことへの指摘もあった。

次に、学校図書は、表現資料が充実し、よくまとまっている。構成についても一般動詞の導入がb e動詞に先行しているが、この点は議論が分かれた。文字のフォントが小さく、読

みにくい。色彩が鮮やか過ぎて落ちつかない印象との意見も上がった。

次に、三省堂は、各レッスンがグローバルな視点に立って扱われ、現在の課題が適切に取り入れられている。特に3年の内容、題材は興味深いものが多く、適切な内容、構成となっている。年間指導時数の関係から考えても余裕を持って指導できる構成、分量となっている。写真や挿絵の取り扱いが適切で丁寧であり、レイアウトもよい。見やすさ、使いやすさの工夫が見られる。

次に、教育出版社は、基礎的事項の導入は適切でわかりやすく、平易な文が多く、内容にも工夫が見られる。系統立った構成となっているが、低学年の分量が多い反面、3年次ではレッスンの題材が少ないとの指摘もあった。基本文形の表記は見やすいが、視覚的な読みやすさ、見やすさにおいては意見が分かれた。

最後に、光村図書出版は、話題の展開は自然でよいが、セクションごとの基本文が示されていないため理解しにくい。各ユニットのコミュニケーションタスクは、会話練習などにはよい。レイアウトについてはシンプルでよいとするのか、物足りないと考えるのか、意見が分かれた。

以上、6社の中で東京書籍と現在使用している三省堂が高い評価となっております。

以上でございます。

竹尾委員長 説明が終わりました。質疑を受けます。

角田委員 英語というのは、小学校から英語に親しませるということが行われていますよね。こういったカリキュラムや指導の一貫性というのは、何かきちんと行われているんですか。それとも、もう中学は中学だけ指導書に沿ってやっているということなんでしょうか。そのあたりを教えてください。

中島田無第三中学校校長 小学校での英語活動が始まって、試行の段階だと思うんですけども、現在中学校のほうではあくまで中学校の学習指導要領に沿った指導計画に基づいて行っております。ただ、委員さんの御指摘があったとおり、今後、小学校での英語活動が始まってまいりますので、特に中1の入門期における指導計画を含めて、次回の教科書の改訂という部分では大きな検討材料になっていくだろうというふうに思っております。

以上です。

角田委員 ありがとうございます。

竹尾委員長 ほかに質疑はございませんか。 質疑を終結します。

これより討論に入ります。

沼本委員 各社、読ませていただきましたけど、やっぱり三省堂が私はいいかなというふうに思います。その理由としては、年間指導時数の関係で、余裕を持って指導できるというふうに指摘されていますけれども、私もそう思いました。それから、例えば三省堂の場合は、2年生の中で、アン、チン、カンの話みたいな、ああいう子どもにとって非常に興味・関心のある内容があって、そういう意味では子どもたちも取り扱いやすい教科書ではないかなと思います。

角田委員 私も、東京書籍の单元ごとにリーディング、リスニング、ライティングというこのセットはすごくいいなと思っていたんですが、分量も適当なようですし、配列もよさそう

で、これもいいんじゃないかなと思いましたがけれども、先ほどお話がありましたように年間の時数から余裕を持って指導ができる分量であり内容だということや、全体的に学習しやすい構成になっているというあたりから、これだったらやはりコミュニケーション力を高めるという点でも三省堂がいいのかなというふうに思いました。

竹尾委員長 ほかに討論はありませんか。 討論なしと認めます。

外国語の英語について採決をいたします。現在使用しております三省堂でよろしいでしょうか。賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

全員賛成。よって、外国語の英語は三省堂に決定しました。

それでは、ただいま決定いたしました教科書につきまして、私から確認のために申し上げます。

国語は三省堂、書写は三省堂、社会（地理的分野）は日本書籍新社、社会（歴史的分野）は同じく日本書籍新社、社会（公民的分野）は清水書院、地図は帝国書院、数学は大日本図書、理科（第一分野）は大日本図書、理科（第二分野）は同じく大日本図書、音楽（一般）は教育芸術社、音楽（器楽合奏）は同じく教育芸術社、美術は日本文教出版、保健体育は学研教育みらい、技術・家庭の技術分野は東京書籍、技術・家庭の家庭分野は同じく東京書籍、外国語の英語は三省堂に決定いたしました。

議案第38号は、以上のとおりでございます。

竹尾委員長 日程第4 議案第39号 平成22年度使用西東京市立小・中学校特別支援学級教科用図書の採択について、を議題といたします。提案理由の説明を求めます。

野崎教育長 議案第39号 平成22年度使用西東京市立小・中学校特別支援学級教科用図書の採択について、でございます。

本件につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の第23条第6号及び西東京市教育委員会事務委任規則第2条第10号並びに学校教育法附則第9条に基づいて提案し、採択をお願いするものでございます。

なお、特別支援学級教科用図書の採択につきましては、毎年採択することになっております関係上、本議案は平成22年度に特別支援学級の設置校ごとに使用いたします小学校、中学校の教科用図書をここで採択するものでございます。この特別支援学級の教科用図書につきましては、学校教育法附則第9条に規定する特別支援学級の使用する教科用図書の特例ということで、いわゆる文部科学省の検定外の図書でも使用することができることになっております。これは、特別支援学級の子どもの発達段階に合わせた指導を行うためでございます。

私からは以上でございます。詳細につきましては事務局より説明いたさせますので、御審議のほどよろしくお願い申し上げます。

竹尾委員長 説明が終わりました。補充説明を求めます。

石井統括指導主事 それでは、教育長に補足いたしまして、私から説明をさせていただきます。

採択の流れについてでございますが、まず、特別支援学級の設置校ごとに校長を中心とした図書研究会を置き、特別支援学級の全教員で平成22年度に使用する教科用図書の調査研究を行い、調査資料を作成し、教育長に提出いたします。

次に、教科用図書調査委員会を開催し、各学校の図書研究会から提出された学校別調査資料について調査を行います。委員は10名で、各特別支援学級の設置校校長または副校長1名及び各校長から推薦された教諭等1名で構成されています。調査項目は、内容・構成・分量、表記・表現及び使用上の便宜の3点を踏まえ、児童・生徒の障害の種類、程度、能力、特性にふさわしいかどうかを検討いたします。その際、児童・生徒の発達段階、教科用図書の冊数や範囲などについても小中学校間で詳細に検討し、報告書を教育長に提出いたします。

続いて、記載内容について例を挙げ、御説明いたします。

議案第39号を御覧ください。

1ページ目の田無小学校わかば学級を御覧ください。国語、算数の第2学年から第6学年にある同成社の「ゆっくり学ぶ子のためのシリーズ」は、特別支援学級等に合わせた内容であり、中原小、東小、保谷中学校でも選ばれております。

1ページおめくりください。東小学校あすなろ学級を御覧ください。国語の第5学年の書名に「国語」という表記がございます。星本と言われておりますが、これは、文部科学省著作教科書であり、知的障害特別支援学級用のものがございます。特別支援学級では、この文部科学省著作教科書以外にも小学校教科用図書、一般図書からの選定も可能になっております。

最後に、昨年度との変更点について御説明いたします。

小学校では、東小学校の第1学年について、国語、書写、算数で検定本に変更しております。これは、保護者の願いを踏まえたもので、教科用図書の内容を適切に吟味、選択し、児童一人ひとりの障害に応じた指導を行うこととしております。

続きまして、中学校、田無第一中学校をお開きください。田無第一中学校が書写の第1学年で、字を丁寧に書くことを指導するために「子どもの字がうまくなる練習ノート」に変更しております。社会の第2学年では、当初、「にっぽんちず絵本」を選んでおりましたが、調査委員会におきまして小学校と重複していることがわかり、「調べ学習に役立つ日本の地図」に変更しております。また、理科では生徒の興味・関心や幅広く観察ができるようにということで、全学年で変更しております。

保谷中学校を御覧ください。第3学年の国語、社会、数学で、くらしに役立つシリーズに変更しております。このシリーズはワーク的に使えることから、より実生活に即しながら具体的に学べるという長所がございます。

私からは以上でございます。

竹尾委員長 説明が終わりました。質疑を受けます。

角田委員 意見です。私は、基本的には直接子どもたちにかかわっている先生方の意見や学校の実態、そして調査を尊重したいと思っています。したがって、賛成したいというのが私の意見でございます。

竹尾委員長 ほかに質疑はございませんか。 質疑を終結します。

これより討論を行います。 討論なしと認めます。

これより本議案を採決いたします。原案に賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

全員賛成。よって、請願第39号 平成22年度使用西東京市立小・中学校特別支援学級教科用図書の採択について、は原案のとおり可決されました。

ここで暫時休憩をいたします。

午後 4 時 0 7 分 休 憩

午後 4 時 1 5 分 再 開

竹尾委員長 それでは、休憩を解き、会議を再開いたします。

日程第5 請願第1号 扶桑社版中学校歴史ならびに公民教科書、および自由社版中学校歴史教科書を採択しないことを求める陳情及び日程第6 請願第2号 子供たちに最高の歴史教科書を提供のお願い、を一括議題といたします。

本請願は、前回から継続案件となっておりますが、先ほど中学校の教科用図書の採択を行い、社会（歴史的分野）は日本書籍新社に、社会（公民的分野）は清水書院に決定したところでございます。したがって、請願第1号は採択されたものとみなすことにいたしたいと思っております。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

竹尾委員長 御異議なしと認めます。よって、請願第1号 扶桑社版中学校歴史ならびに公民教科書、および自由社版中学校歴史教科書を採択しないことを求める陳情、については採択されたものとみなします。

続きまして、請願第2号については不採択されたものとみなすことにしたいと思っております。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

竹尾委員長 御異議なしと認めます。よって、請願第2号 子供たちに最高の歴史教科書を提供のお願い、については不採択されたものとみなします。

竹尾委員長 日程第7 協議事項 文化・スポーツ行政の推進体制について、を議題といたします。

なお、本協議事項につきましては前回からの継続協議となっております。事務局から補足説明がありましたらお願いをいたします。

櫻井教育企画課長 ございません。

竹尾委員長 補足説明はないそうでございますので、説明を終わりとし、これより質疑を受けます。 質疑を終結します。

文化（文化財保護を除く。）及びスポーツ（学校における体育に関するものを除く。）に関する事務並びにスポーツに関する施設及び審議会等を市長部局に移管の上、市長が執行・管理または所管することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

全員賛成。よって、文化（文化財保護を除く。）及びスポーツ（学校における体育に関する

ることを除く。)に関する事務並びにスポーツに関する施設及び審議会等は市長部局に移管の上、市長が執行・管理または所管すべきであるとの結論に達しました。

ここで暫時休憩をいたします。

午後 4 時 1 8 分 休 憩

午後 4 時 2 0 分 再 開

竹尾委員長 それでは、休憩を解き、会議を再開いたします。

ただいま教育長から議案第40号 文化・スポーツ行政の推進体制等について、が提出されました。直ちにこれを日程に加え、議題といたします。

竹尾委員長 追加日程第1 議案第40号 文化・スポーツ行政の推進体制等について、を議題といたします。提案理由の説明を求めます。

野崎教育長 議案第40号 文化・スポーツ行政の推進体制等について、の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、先ほどの御協議により、文化・スポーツ行政の推進体制について、教育委員会として協議した内容を議案として提案するものでございます。内容といたしましては、3点でございます。

第1として、文化(文化財保護を除く。)及びスポーツ(学校における体育に関することを除く。)に関する事務については、より一体的な組織体制のもと振興施策や事業に取り組むことが重要であることにかんがみ、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第24条の2に基づき、市長が所管することが適当と考えるものですが、生涯学習の総合調整機能、市立小学校を拠点とする地域生涯学習事業、公民館・図書館の社会教育事業については、引き続き教育委員会で所管することが適当であると考えます、としております。

第2として、ただいま御説明いたしました第1と同様に、スポーツに関する施設及び審議会等を市長が所管することについても適当であると考えます、としております。

以上の2点につきましては、市長から教育委員会に意見を求められておりましたので、ただいま御説明した内容で市長に対して回答するものでございます。

第3として、文化・スポーツの業務が市長部局に移管することに伴い、教育委員会事務局等の組織体制を見直す必要があることから、地方自治法第180条の4及び同法施行令第132条の規定により、市長に協議の申し出をするものでございます。

具体的には、スポーツ振興課が市長部局へ移管され、それにかわりまして、特別支援教育の総合的な推進を図るため、(仮称)教育支援課を新設することの協議を申し出るものでございます。

なお、新旧の事務局の組織については裏面に記載してございます。

以上、簡単でございますが、提案理由とさせていただきます。

竹尾委員長 説明が終わりました。質疑を受けます。 質疑を終結します。

これより討論に入ります。 討論なしと認めます。

これより本議案を採決いたします。原案に賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

全員賛成。よって、議案第40号 文化・スポーツ行政の推進体制等について、は原案のとおり可決されました。

竹尾委員長 日程第8 報告事項 平成21年度図書館蔵書点検報告について、を議題といたします。

報告事項の説明をお願いいたします。

奈良教育部主幹(図書館) 図書館の蔵書点検の結果について、お手元の資料に沿って御報告申し上げます。

1の点検実施日程ですが、5月11日から6月30日にかけて、6館1分室の点検を行いました。1館ずつ実施しました理由は、休館中でも市民の方が図書館施設を利用できるように配慮したものです。

次に、2の蔵書点検後の不明資料数について、御報告申し上げます。

図書資料は、蔵書数75万5,277冊のうち、不明資料は2,671冊で、不明率は0.35%となっております。

雑誌は、所蔵数2万2,654冊のうち、不明資料が176冊で、不明率は0.78%となっております。

CD・カセットは、所蔵数1万5,718点のうち、不明資料が43点で、不明率は0.27%となっております。

次に、新刊図書における不明資料数ですが、平成20年度の新刊図書の購入冊数は3万6,519冊で、そのうち不明となった資料は93冊となっております。不明率は0.25%でした。

以上、図書館蔵書点検の結果を御報告いたします。

竹尾委員長 報告事項が終わりました。質疑を受けます。

沼本委員 この不明の理由は主に何ですか。

奈良教育部主幹(図書館) 考えられる理由は無断持ち出しということですが、現在不明の資料の中には昨年度導入したICタグシステムの移行データも含まれておりますので、実際来年度にデータをとったときにはもう少し少ない数字になるかと思えます。

沼本委員 そうすると、この数値というのはIC装置の前のも入っているわけですね。そういうことですか。

奈良教育部主幹(図書館) 前のも入っていたというのは機械のことですか。

沼本委員 そのICをセットする前のデータも入っているということですか。

奈良教育部主幹(図書館) ICタグの管理システムが導入されたのが6月1日からですので、4月・5月分の不明も含まれております。

沼本委員 実際にそれを導入した以降の不明率というのは減少しているわけですか。

奈良教育部主幹(図書館) ICタグシステムを入れる前の不明資料数なんですけど、それは平均4,500冊ほどでしたので、0.6%ぐらいの不明率だったんです。それが0.35%になったということから考えると、4月・5月を除いた6月以降の不明数はかなり少ないものと推測されます。ただ、機械上、その日付を区切って出すということがちょっとできない

ものですから、今こういう数字になっております。

竹尾委員長 ほかに質疑はございませんか。 質疑を終結します。

以上で報告事項を終わります。

竹尾委員長 日程第9 その他、を議題といたします。

教育委員会全般についての質疑を受けます。 質疑を終結します。

以上でその他、を終わります。

以上をもちまして平成21年西東京市教育委員会第7回定例会を閉会いたします。ありがとうございました。

午 後 4 時 2 9 分 閉 会

西東京市教育委員会会議規則第29条の規定によりここに署名する。

西東京市教育委員会委員長

署 名 委 員